

令和2年度第3回神戸市市民福祉調査委員会
計画策定・検証会議ワーキンググループ議事要旨

1. 日時 令和2年5月25日（月）午後1時30分～午後3時30分
2. 場所 神戸市役所1号館8階大会議室（オンライン会議）
3. 議題 (1) 神戸っ子すこやかプラン2024について
(2) 認知症「神戸モデル」事業効果について
(3) 次期市民福祉総合計画策定に向けて

開 会

議 題（1）神戸っ子すこやかプラン2024について

（事務局より資料1の説明）

（委員） こどもに関わるいろいろな分野の中で、神戸市の売りや、新規施策について教えてほしい。また、本プランにおいて、スクールソーシャルワーカーについての記載はあるのか。

（事務局） 切れ目のない施策というのが神戸市の特色である。どこかに重点特化しているというよりは、切れ目なく支援施策が続くことが特徴であると考えている。近年の傾向としては、令和4年に向けて保育定員の拡大や保育士の処遇改善を含め保育人材の確保に努めており、待機児童0を目指している。また、産前産後のホームヘルプケア等も充実させてきている。

スクールソーシャルワーカーについては、第5章の関係機関との連携というところに含まれてくることになるかと思うが、文言としては関係機関としてでてくる程度であり、掘り下げてということになると、教育関係の部門にでてくると思われる。

（委員） この情報は神戸市ではどういった関係者に共有しているのか。

（事務局） 計画はホームページで公開しているので誰でも見ることができる。冊子としては、庁内に配布する程度である。

（委員） 総合計画に関しては、これまでのワーキングの中で、より多くの人たちに翻訳していく作業が重要という点を話してきた。すこやかプランは、市のデータをもとに作られていると思うが、例えば、子育ての困りごとといったことの地域ごとのデータはあるのか。そういったデータがあれば提供していただければ、イメージが広がっていくのではない

かと思いながらお話を聞いていた。例えばアンケートを取る際に、区ごとに分けられるようなデータを取ったりしているのか。

(事務局) アンケートに関して、居住区はお聞きしているので、集約状況は確認する必要があるが、居住区ごとのデータはお渡しすることはできると思う。また、策定に関する会議でも委員の方から、居住区という切り口ではないが、使う方から見て、分かりやすいように体系立てて整理をしてはどうかという意見をいただいております、HP 上で確認できるようなサイトの構築に向けて準備を進めているところである。

(委員) 神戸市のこどもの福祉分野で、児童虐待に関して、夜間の対応等で NPO との連携が難しいと思う事例があった。総合計画では NPO 等との連携という項目が入ってくることになると思うが、こどもの分野で連携している団体はあったりするのか。

(事務局) 手元に資料がないため、後日改めてお伝えする。

(委員) 子育てという分野は広い関係性を持って考えていくもので、今後、コロナの影響もあり、おそらく女性が産み、育てやすい、子育てしやすい、そして、社会の中でどう子どもを守り育てていくのかということまで、非常に広く含まれてくると思う。次に認知症のことを話してもらうことになっているが、地域福祉の視点を持った時には、全ての人々と関わってくることは避けられないと思うので、どういう連携がこれから必要か、この点は吉岡委員も言われていたが、女性が働きやすい仕事環境も今後コロナ禍の後に入ってくる内容であると思う。今後の体系等についてどのように考えておられるのか。

(事務局) 改訂の中では、毎年利用者や事業者アンケート等を取っている。今年、保育施設の利用に関しては、特別保育を実施するなど、通年の状況とは異なっているので、今年状況については、どのように過ごされているか、地域の中でどのように過ごされていたか等、改めて質問項目を変えてお聞きしていきたいと思う。それを、今後こども子育て会議の中で学識経験者に諮りながら、今後の計画の見直しについて検討していきたいと思う。

議 題 (2) 認知症「神戸モデル」事業効果について

(事務局より資料 2・3 の説明)

(委員) 先ほど、予想以上に受診者が多かったと説明があった。その理由の一つとして、税金負担が生じることで、自分のこととして理解されたからと言われていたが、これをき

かけとして、市民の意識が高齢者施策全般に広がっていくことが大事であり、これからもこの認知症施策を突破口にして、いろいろな人の支え合いを広げることにつながればと思う。

議 題（3）次期市民福祉総合計画策定に向けて

（事務局より資料4の説明）

（委員）

- ・ 前回までの意見が踏まえられており、表現としても分かりやすい。
- ・ 誰に読んでもらうかを考えていく必要があり、市民に多く見てもらう、つまり、視聴率をあげていくことが重要。
- ・ 分かりやすいのも大事だが、読んだ方が参加したいと思う演出が必要。
- ・ 内容はいいと思うので、あえてタイトル部分に引っかかりを作ってあげてはどうか。さらっと読めしまうと、どうしても自分が参加したいとは思わない。
- ・ 時代に合わせてということを見ると、コロナやSDGsについても少し触れたほうがいいのではないか。

（委員）

- ・ 前回までの意見が活かされている。
- ・ 地域福祉のベースとして、行政だけではなく、いろいろな人達が参加しながら社会を作っていく。その時に、多くの方にひっかかるフックが必要である。例えばSDGsといったキーワードが入っていると、企業の方たちの関心を集めやすくなる。
- ・ いろいろな人達とともに作っていくといっても、地域福祉計画は、行政にとってのマニフェストのようなものである。市民に対して、このようにしていくという宣言である。
- ・ 基本方策について、1つ目の「市民が主役となる環境づくり」は、計画の大きなテーマであり、それを目指して、神戸市はこのようなことをするというメッセージが伝わるとより分かりやすくなる。
- ・ 2番目の「福祉サービスの安定した提供と新たな福祉課題への対応」は、この部分は、神戸市がするというのを分かりやすく書けたらいいのではないか。

（委員）

- ・ 落ち着いて読める文章であるため、引っかかりがあればいいと思う。例えば、最初の「誰もが安心して自分らしく暮らせる」というのは、その通りではあるが、そこに「参加していく・力を発揮していく」というニュアンスができればいい。
- ・ 「市民」をどうとらえるのかについて、議論が必要ではないか。例えば、「①市民が主役と

なる環境づくり」の本文中「市民だけでなく施設やNPO等の…」における「市民」は、ひとりひとりの住民である。「市民」は、いろいろな見方ができ、言葉の使い方が難しい。「②福祉サービスの安定した提供と新たな福祉課題への対応」の本文中の「市民の相談を受け止め、市民と支援者がつながり…」における「市民」は、受け手として使われている。

(委員)

- ・次期計画案の3つ目の方針である「市民・事業者・行政の連携」について、現計画では「地域福祉のプラットフォーム」となっている。次期計画案の方が分かりやすいが、ありふれているため、どういう連携なのかがもう少し分かる方がいい。
- ・「市民ひとりひとりが主役」という言葉は、よく他の計画等でも使われるが、分かりやすいようで、主役とは？と考えたときに、この福祉計画の中ではもう少し違った表現ができないかを感じる。先ほど竹内委員がSDGsについても触れられたが、その中に書いてあることとも関連するのではないか。
- ・新たな福祉課題に対応していくことを考えたときに、コロナの現状をどうするかについて、市民が感じていることに踏み込んだ言葉が何かないだろうか。

(委員)

- ・「②福祉サービスの安定した提供と新たな福祉課題への対応」のなかで、「生きがいや役割を持ち」とあるが、例えば、障害があっても、ひとりひとりが個性や力を発揮できる、といった表現ができないだろうか。
- ・同じく②のなかで「安心して暮らせることが保障されていなければなりません」とあるが、社会基盤や専門職によるサービスが保障されていることが必要であり、その点については行政がしっかりと整備していくので、みんな頑張ろうというのが出ればいい。

(委員)

- ・次期計画案の基本理念である「誰もが安心して自分らしく暮らせる市民福祉の実現」について、現計画でも「つながりと支え合いが織りなす市民福祉の実現」と同じようなワードを使っている。「実現」と毎回使うが、必須なのか。
- ・説明文が丁寧なので、タイトルは分からなくてもいい、キャッチーなものでもいいのではないか。
- ・個人的な感覚だが、デザインという言葉を使うといいのではないか。「新しい社会をデザインしていこう in 神戸」だと、何かが変わるという印象がある。そこで気になって本文を読んでもみると、デザインとはこういうことだと分かる。いいかどうかは分からないが、自分が市民だったらタイトルを見て、読みたい・知りたいと思う。
- ・従来の文言を使えば手堅いとは思いますが、響かないと思う。少しとがった言葉を使うと、反対の意見や厳しい意見があるのかもしれないが、視聴率を上げることを一番に思うので

あれば、使ってみてもいいのではないか。

- ・「市民ひとりひとりが主役」という言葉も悪くはないが、反対がないゆえに流れてしまうのではないか。
- ・私は「一人ひとりが機能する」という言い方をするが、この言い方は嫌われることが多いが内容さえきちんと説明できれば、「機能する」という言葉も悪くないと思う。
- ・とがりをつけていくことも、これからの時代を考えるといいのではないか。

(委員)

- ・「ひとりひとりが機能する」という言葉は、新たな言葉として参考にさせていただく。
- ・「機能する」という言葉はICFのワーディングの中でも使われる、ひとりひとりが機能という使われ方ではないが、ICFの言葉自体が機能という言葉を含んでいると考えれば、その機能という言葉は、特に違和感はないかと。
- ・ICFやSDGsを考えていくなかで、中身としては計画とつながる点があると思うので、再度勉強し直し、どういう風に取り込むエッセンスを引っ張ってくるかを検討したほうがいい

(委員)

- ・いろいろな地域福祉計画を見ているが、「主役」という言葉がたくさんある。学生たちに、市民目線でみた感想を聞くと、「自分はそのまでするのは無理だ」という印象を受けてしまうようである。つまり、ワーディングはすごく重要であり、「それぞれが主役になる」というのも大事であるが、そこをどのように表現するのが大事。
- ・例えば、「輝く」という言葉で考えたときに、自ら輝く人もいれば、照らされて輝く人もいる。「主役」というと、リーダーのイメージがあるが、それだけではない。丁度いい言葉がでてこないのが、いろいろな人たちが参加するということは、勿論一生懸命やる人も、そこについてくる人も、周りで見ている人もいる、それが地域福祉の在り方だと思うので、そこを上手く伝えられるようなワーディングが望ましい。また、自分でもできると思ってもらえるような表現ができれば、繋がっていくと思うので、そういう言葉が選択できればいいと思う。
- ・SDGsの中に、ひとりも取りこぼさないというワードがある。一方で、多くの企業の方と話していると、常に支援するという対象で見えてしまうそうである。ソーシャルインクルージョンの理念を多くの人に正しく理解してもらうには、今この中では「支える、支えられる」という言葉で書かれているが、それをしっかりと伝えていくということが大事である。
- ・神戸モデルに関して、言い方は語弊があるかもしれないが、基盤がしっかりと整備されているため、認知症になっても地域に出て行って、活躍できる場を用意できるという話になる。そういったものはしっかりと活かせるような言葉やイメージが伝えられるといい

(委員)

- ・神戸市の特色が付け加えられるといいのではないかと。ポートアイランドの先端医療であったり、北区の谷上でのテクノロジーの話であったり、市の政策なので、それは結局市民の役に立つとの判断から実施されていると思うため、そういった要素が文面でできるといいのではないかと。市ならではの強みができればと思った。市民からすると、神戸市はここが素晴らしいということを探していると思うので、神戸市はここがすごいという点が反映できればと思った、

(委員)

- ・福祉と健康を考えることは別々ではなく、つながってくることだと思う。コロナの状況下ということ念頭に置いたときに、WHOの規定している健康というところには、身体的なことだけではなく、社会的な意味合いも含まれているので、それを前提として生活というもの考えていく必要がある。それをどのように含みこんでいくか。Society5.0 や第四次産業革命といったようなエッセンスは避けられない部分だと思うので、それをどこまで計画に反映していくかについても、今後他部局の説明も聞きながら、考えていきたい。

(委員) まとめ

- ・基本理念については、前半の文章はもう少し言葉を考えながらになるが、概ね理解は得られている。
- ・3つの基本方策について、1つ目は、「市民が主役」というところはもう少し言葉を変えていく。
- ・2つ目については、行政からの宣言という点も踏まえて、市民がもう少し自分のことと感じていけるような表現をしていけるか。
- ・3つ目については、全ての人が連携していくことの必要性を考えていた時に「市民・事業者・行政」の中にどんなことが思い浮かべるのか、具体的なイメージを持って言葉を変えていく必要があるのではないかと。特に今出てきたSDGsの考え方というのが、(コロナの影響で)神戸が大変な状況になっている今、第三次産業、特に小売業が多いということもあって、おそらくこれから大変な状況が明らかになってくるのが懸念されるが、誰も取り残さず、全ての人を包摂していくことを考えていったときに、文章に書いてもらってはいるが、年齢や障害の有無や性別といったことではなくて、どういう人まで頭に思い浮かべられるのかも考えながら、書いていく必要があるのではないかと。

閉 会